インフルエンザ流行期の発熱、咳で受診される患者さんへ

●インフルエンザの症状・診断

発熱、咳、鼻水、筋肉痛、関節痛、頭痛などがあります。**他のウイルスが原因の風邪**と大きくは変わりありません。

診断に**検査は必須ではありません**。症状・身体所見・流行状況などで診断可能です。

検査の精度に限界があり**『迅速検査陰性＝インフルエンザでない』と言い切れません。**

●インフルエンザの治療

インフルエンザは健常者であれば、ほとんどが 3～7 日で自然に治癒する疾患です。

抗インフルエンザ薬が最大の効果を発揮するのは発症 6 時間以内ですが、その期間は検査が陰性(偽陰性)となってしまうことが多いです。発症 48 時間以内に服薬すれば、有熱期間が半日ほど短くなりますが、**健常者においては抗インフルエンザ薬に重症化を防ぐほどの効果は残念ながらありません。**

抗インフルエンザ薬には**嘔吐、下痢、精神症状など副作用**があり CDC（米国疾病管理センター）でも注意喚起がなされています。従って、健常者には投薬が**不要**であると結論付けられています。

十分な休養と**水分栄養補給**が重要で、高熱等に伴う苦痛が強いときに解熱鎮痛薬を使用します。

当救命救急センターのインフルエンザの診療方針

■　**健常者(重症化リスクのない方)には**

苦痛を伴う迅速検査は極力控え、症状や流行状況から総合的に診断します。

抗インフルエンザ薬は原則使用せず、十分な休養、経口補水療法、患者さんの症状に合わせた苦痛を緩和する治療を推奨しています。

■　**下記の項目に該当する方は重症化のリスクがありますのでお知らせください。**

検査・抗インフルエンザ薬の投与を考慮します。

(該当する方すべてに抗インフルエンザ薬が必要というわけではありません。)

□　肺や心臓に持病がある、喘息がある

□　糖尿病がある

□　肝臓や腎臓の機能が悪い

□　ウイルスや細菌に対しての抵抗力が低い、ステロイドなどの抵抗力を下げる薬を飲んでいる

□　妊婦（および産後 2 週目まで）

□　5 歳未満（特に 2 歳未満）、65 歳以上

□　アスピリン内服中

インフルエンザ流行期に重要なことは、発熱や咳などの症状がある間はインフルエンザ迅速検査の結果に関わらず、人の集まるところに行かないようにして**周囲への拡大を防ぐこと**です。

岐阜県総合医療センター　救急救命センター